

平成 25 年度腎バンク事業報告

- 1.臓器移植普及推進月間の啓発レポート
- 2.イオン黄色いレシートキャンペーン
- 3.講演会等の実施
- 4.臓器提供協力施設でのシミュレーション等の実施
- 5.移植医と救命救急医との臓器移植に関する懇談会

1.臓器移植普及推進月間の啓発レポート

平成 9 年 10 月「臓器移植に関する法律」の施行に伴い、毎年 10 月は臓器移植普及推進月間となっている。当協会はそれに併せて毎年キャンペーンを行っている。

毎年、陸上自衛隊東北方面隊記念式典のイベント会場の一角をお借りして実施している臓器移植普及推進キャンペーンを、今年度も推進月間に先立ち平成 25 年 9 月 29 日(日)に行った。会場は今回も昨年と同様に JR 仙石線・苦竹駅近くの仙台駐屯地で行われた。

当日は天候に恵まれ、また、市街地に近く交通の便もよい会場ということもあり、多くの来場者で会場が賑わった。来場者は自衛隊の特殊車両展示、戦車の乗車体験、音楽隊の演奏、屋台での買い物などを楽しんでいる様子だった。

当協会は各団体の協力を得て、来場者に対して、宮城県オリジナルの楽天イーグルスデザイン意思表示カード、啓発用のミニタオル、各協力バンクのパンフレット等をまとめた啓発資材 4,000 セットと、ハート型風船 1,000 個を配布し、意思表示の協力と理解を呼び掛けた。

テント内では臓器提供意思表示コーナーや血圧測定等を行うブースを設け、自由に立ち寄って頂けるようにしたところ多くの方が立ち寄っていった。



臓器移植に関して、宮城県は平成 26 年の 1 月と 3 月に脳死下臓器提供が行われ、この高まった機運を大切に、県民により理解して頂く必要がある。しかし、平成 25 年に内閣府が実施した世論調査によると、意思表示カードや運転免許証、健康保険証の裏面などの何らかの方法で意思表示(提供する・しない両者含む)をしている国民は 12.6%(前回調査の平成 20 年の 4.2%からは大幅に増加)しかいない。今回、啓発資材

を受け取ることで、家族内や個人で臓器提供を考え、そこから意思表示を行うきっかけにして欲しいと考えている。

今回も盛大にキャンペーンを開催することができた。これも自衛隊や協力団体、ボランティアの方々のご理解とご支援によるものであり、心から感謝申し上げます。

○協力団体(順不同・敬称略)

陸上自衛隊東北方面隊

宮城県、宮城県腎不全医療資材研究会、宮城骨髄バンク登録推進委員会、さい帯血サポートバンク宮城、宮城県臨床工学技士会、仙台菘ライオンズクラブ、宮城県腎臓病患者連絡協議会、プルデンシャル生命保険株式会社、東北文化学園大学、東北文化学園専門学校 臨床工学科



2.イオン黄色いレシートキャンペーン

毎月 11 日、イオンで買い物をすると黄色いレシートが発行される。このレシートを各店舗に設置された福祉団体等の投函箱に入れると、集まったレシートの合計金額の 1%をイオンが負担して、各福祉団体等が必要としている物品が贈呈される仕組みとなっている。これはサポートを必要としている福祉団体等と、「応援したい」という気持ちを持つお客さんを結び組みとしてイオンが始めたもので、当協会はイオン利府店、イオンスーパーセンター鉤取店、ザ・ビッグ多賀城鶴ヶ谷店に投函箱を設けている。

今年度は例年通り平日の 11 日に、店頭活動として宮城県オリジナル意思表示カードを買い物客に配布し、臓器移植の普及推進に努めた。中には「健康保険証の裏面に記入しているのではない」とや「家に帰ったら記入するし、家族にも伝える」と言う買い物客も

いて、少しずつではあるが県民の意識も高まってきているようだ。

3.講演会等の実施

(1)臓器移植フォーラムの開催

今年度は平成 25 年 11 月 17 日に仙台市青葉区にある、アエル 30 階の TKP ガーデンシティ仙台ホール D で開催した。講演は JCHO 仙台病院の移植医が「移植医療について」という内容で行った。その後は生体腎移植のドナーの方、レシピエントの方の体験談の発表も行われ、普段聞くことのできない 3 名の大変貴重な話に来場者は真剣に聞いていた。

同時に、アエル 2 階のアトリウムでは、移植を受けた子どもたちの絵画展示も行われた。多くの人が足を止め熱心に作品に見入っている様子だった。



(2)仙台市民医学講座

仙台市若林区にある仙台市医師会館で仙台市、仙台市医師会、仙台市医療センター、仙台市救急医療事業団が主催で毎月開催する市民医学講座にて、宮城県臓器移植コーディネーターが本講座開始前の時間を活用し、臓器提供に関する講義を行った。市民に対して少しでも移植医療に興味を持って頂けるように資料を作成し、説明を行った。

また、意思表示カードや移植医療に関するパンフレットを置くブースも設け、来場者が自由に持ち帰ることができるようにした。

4.臓器提供協力施設でのシミュレーション等の実施

臓器提供協力施設で脳死下臓器提供シミュレーションや、心停止下臓器提供勉強会が開催され、日本臓器移植ネットワークの臓器移植コーディネーターと宮城県臓器移植コーディネーターが共に参加した。

各病院とも医師、看護師、院内臓器移植コーディネーター等が参加し、実際に臓器提供者が発生した際にはよりよい体制で臨めるよう臓器提供の一連の流れや不明点な点を確認できたことはもちろん、病院スタッフと臓器移植コーディネーターの間で協力体制・信頼関係を構築することができた。

(1)石巻赤十字病院(平成 25 年 10 月 22 日)

心停止下臓器提供勉強会

医師、院内臓器移植コーディネーター等約 10 名が参加。

(2)仙台市立病院(平成 26 年 3 月 12 日)

脳死下臓器提供シミュレーション

医師、看護師、事務職員、院内臓器移植コーディネーター等約 20 名が参加。

5.移植医と救命救急医との臓器移植に関する懇談会

東北大学病院に新設された臓器移植支援室と当協会が共催で、平成 26 年 2 月 5 日に移植医と救命救急医との臓器移植に関する懇談会を開催した。

内容は、宮城県臓器移植コーディネーターが日本と宮城県の移植の現状の報告と、各臓器の移植術や現状について東北大学病院、JCHO 仙台病院の移植医が説明を行った。その後、県内各病院から集まった救急救命医との意見交換の場も設けられ、各病院からの貴重な意見を頂くことができ、有意義な会となった。

今後も懇談会は定期的で開催していくので、宮城県が臓器提供に関して活発な県となることが期待される。

(記:宮城県臓器移植コーディネーター長井 秀太)